

令和6年度 1学期終業式

おはようございます。まずは本日、大過なく1学期の終業式を無事に迎えることができました。大変嬉しく、そして、生徒の皆さん、先生方、保護者等の皆さんに感謝します。

さて、4月の始業式で、三つのお願いをしました。覚えていますか？

一つは、『なりたい自分に近づくのために何事にも精一杯取り組む向上心と目標を持ち、行動をおこし、チャレンジしていく』

二つには、『私たちは誇れる学校を、地域からは愛される学校を、みんなでつくっていく』。そのためには、あいさつや困っている人への声かけ、お互いに「ありがとう」と言える行動など、当たり前のことを当たり前でできる、また、当たり前のことをお互いに認め合うこと。

三つには、『自他ともに、命を尊重する行動に努める』。登下校時の交通事故や部活動中のけが・事故、特にいじめ等による自殺は絶対にあってはならない。

皆さん、どうでしょう。少しずつでも、達成にむけて進みましたか？節目、節目で確認して、今から行動に移していきましょう。

皆さんの一学期を振り返ってみて、「達成・充実か、後悔か」と聞かれたら、どちらが当てはまりますか？学校行事では、校外学習や明南祭などがあり、クラスや年次で楽しい思い出がくれたのではないのでしょうか。また、部活動では3年次は最後の公式大会や発表会をやり遂げ、結果はともかく、好きな部活動を部員の仲間たちと最後まで戦い抜き、仲間の大切さや勝負の難しさなどを実感したことと思います。この高校生活で得た経験は、これから皆さんの秘めたる、自ら気づいていない可能性を引き出すために、きっと役立つときがやって来ます。誰もが目の前でターニングポイントを迎えていますが、「自ら気づく人、気づかない人」や「周囲の人から気づかされる人、気づかされない人」など、振り返ってみれば、あのときが自分のターニングポイントだったのかと思うときが、必ずやってきます。

自分の話をして恐縮ですが、私のターニングポイントは、中学3年生の時、陸上競技の県大会の走り高跳びで当時の自己記録より25cm低い最初の高さがクリアできずに、「記録なし」という人生で初めて自暴自棄になる経験をしました。正直、これくらいはクリアできるだろうと高を括っていました。わざわざ家族や顧問以外の先生が大会会場まで応援に来てくれたのに、その不甲斐ない自分と屈辱で中学生ながら押しつぶされそうな自分がそこにいて、悔し涙を流した光景を40年以上たった今でもはっきりと覚えています。私はこのことを契機に、自分が信じられるまで自分に向き合うために、その悔しさをバネに何度も繰り返し高跳びの練習に打ち込み、弱い自分に負けないよう納得いくまでやり続けました。その結果、約1ヶ月半後の大会で自己記録での優勝をすることができ、今も努力は裏切らないと信じて生活を送っています。

是非、この夏休みを皆さんのターニングポイントにしてください。人それぞれ目指すものは違うかもしれませんが、この長期休業を有効利用して、夏休みにしかできないことに挑戦してみてください。特に、夢や進路の実現にむけて、本物に触れるいい機会だと思います。例えば、実際になりたい職業を見学する、一流選手の試合や練習を観戦するなど、自分で自分を信用できる生き方、生活の仕方を探してみてもはどうでしょうか。普段やっていない洗濯、お風呂掃除なども自ら継続していくことも一つの切っ掛けになるかもしれません。今からでも十分に間に合います。

最後に自他ともに命を大切にしてください。そして、健康第一で生活しましょう。それと本日、帰宅したら通知表とともに、照れくさいでしょうが、家族に対して「いつもありがとう。」の一言を添えてみてください。切っ掛けは自分自身で見つけ、行動あるのみです。

9月の始業式には元気で成長した、たくましい姿での再会を楽しみにして、1学期終業式の式辞とします。

令和6年7月19日

校長 織邊 剛